



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3916号 2017.9.24 発行

おなかの中の赤ちゃんをお手元に 3Dプリンターで再現

朝日新聞 2017年9月23日



音波検査の立体的な画像データを元に3Dプリンターでつくった赤ちゃんの置物。サイズや形は選べる=東京都内

まだおなかの中にいる赤ちゃんをお手元に——。丸紅情報システムズ(MSYS)が10月から、妊婦のおなかの中の赤ちゃんを、3Dプリンターで再現するサービスを始める。産婦人科医と連携し、出産の記念や、家族へのプレゼント



トにしてもらう狙いだ。

再現するには、おなかの中の赤ちゃんを超音波で検査する「4Dエコー」の立体的な画像を使う。笑ったり、指をくわえたりする愛らしいしぐさを医師が撮影し、MSYSに提供。同社の最新の3Dプリンターを使って、2～3週間でアクリル系樹脂製の置物が完成する。どんなしぐさを採用するかは、妊婦と医師が相談して決める。

妊婦の間では、おなかの中の赤ちゃんの立体的な画像を見たいというニーズが多く、検査設備がある遠方の医療機関に出向く人もいる。MSYSの担当者は「赤ちゃんが大きくなったとき、置物を見ながら親子で懐かしんでほしい」と話す。

サービスを発案した、大阪市阿倍野区の西川医院で10月から始める。年内に九州の病院とも連携予定で、3年後には年間5万件分の作製を目指す。西川正博院長は「赤ちゃんを身近に感じ、出産という生涯の大イベントを迎える喜びを感じてほしい」と話している。

料金は病院の意向や商品のサイズによって異なる。西川医院では7千～3万円台での提供を予定しているという。(鬼原民幸)

千葉県内市町村の経常収支比率、2年ぶり悪化

日本経済新聞 2017年9月23日

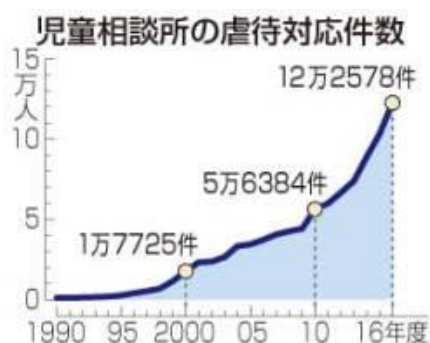
千葉県が22日発表した県内54市町村の2016年度普通会計決算によると、一般財源のうち人件費など毎年決まって支出する経費の割合を示す経常収支比率は平均90.9%と15年度

に比べて2.4ポイント上昇した。比率が悪化したのは2年ぶり。社会保障費の増加などが響き、財政の自由度が狭まっている。

経常収支比率は財政の硬直度を測る指標で、高くなるにつれ自由に使える財源が少ないことを示す。一般的には80%以下にとどめるのが健全財政の目安とされる。県内では四街道市の99.7%が最も高く、館山市(98.2%)、大網白里市(96.8%)が続く。

市町村の財政を圧迫しているのは児童、高齢者などへの支援に充てる扶助費の負担だ。16年度は市町村合計で5118億円と前の年度に比べて7.5%増えた。年金受給者への臨時給付金や障害者の自立支援サービスにかかる費用が増加したほか、保育所の増設で児童福祉費も膨らんでいる。

54市町村の実質収支の合計は648億円の黒字だった。10年連続で全市町村が財政黒字を確保したが、黒字幅は15年度に比べて12.3%縮小した。



児童虐待、初の全国研修＝検事の専門性向上へー医師ら講演「連携重要」・最高検

時事通信 2017年9月23日

増え続ける児童虐待に対応するため、最高検と法務省は25日から、全国の検事24人を集めた研修を初めて実施する。専門性の向上が狙いで、講師を務める医師は「虐待防止のため、関係機関が連携して情報を共有することが重要だ」と指摘する。

厚生労働省によると、全国の児童相談所(児相)が対応した児童虐待の件数は年々増加し、2016年度は12万2578件に上った。一方、各地検は警察が逮捕するなどした親らの刑事処分を判断するが、児相との連携不足が一因となり、不起訴とした後に再び子供が虐待され死亡したとみられるケースもあった。

こうした中、検察と児相、警察は、被害児童らの負担軽減のため、それぞれ実施していた事情聴取をいずれかの機関が代表して行うなど連携を強化。最高検も昨年6月、「刑事政策推進室」を設置して支援体制を整え、今回の研修を企画した。

研修は5日間の日程で、外部講師として小児科医や児相職員ら10人が講義する。最高検の担当者は「虐待への対応で検察が果たせる役割は大きく、そのためには専門的な知識が欠かせない」と話す。

講師の1人で「大阪急性期・総合医療センター」(大阪市)小児科の丸山朋子医師は、虐待された場合と通常の転倒事故の際に起きる脳の損傷の違いなどを説明する。丸山医師は「虐待を見逃さないことが大事で、情報共有は欠かせない」と強調する。

別の講師で「四国こどもとおとなの医療センター」(香川県善通寺市)小児科の木下あゆみ医師は、13年に有志の勉強会を立ち上げ、高松地検の検事も参加した。その結果、検察と医療機関の意思疎通が深まったといい、「子どもを守るという共通の目標に向かって、それぞれ強みのある関係機関が協力することが重要だ」と指摘する。

成年後見人、職務怠り賠償命令 欠ける質、解任255件 出河雅彦

朝日新聞 2017年9月22日

障害者の成年後見人となった司法書士が、受給できるはずの年金の手続きを放置するなど職務を怠り、裁判で損害賠償を命じられるケースがあった。家庭裁判所が昨年、財産横領などで後見人を解任した数も255件にのぼり、後見人の不適切な対応が目立っている。

松江市の司法書士、伊藤崇さんは2014年2月、同市内の高齢者専用賃貸住宅に住む男性(62)の後見人になった。家裁への定期報告の遅れを複数回指摘され、裁判官の審

問を2度受けた前任の司法書士が辞任したためだ。

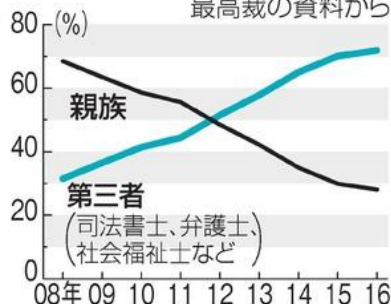
伊藤さんが訪ねると、交通事故に遭い脳に障害が残る男性は、起きている時間の大半を介助用車いすに座って過ごしていた。食事はできず、胃ろうから栄養をとっていた。通帳を調べると、家賃や光熱費のほか実際は食べていない月4万5千円の「食費」が預金から引き落とされていた。

前任者は施設をほとんど訪れず、手続きをすれば男性が受給対象になる障害年金の手続きもしていなかった。

伊藤さんは3カ月後、本人と親族の同意を得て、男性を障害者支援施設に移した。男性は自ら操作できる車いすで施設内を動き

後見人と利用者の関係の推移

後見人には保佐人、補助人を含む。
最高裁の資料から



回るようになった。

「専門職として職務怠慢」。伊藤さんは14年12月、男性の法定代理人として前任者に約3300万円（障害年金受給が認められたため、提訴後約2600万円に減額）の損害賠償を求めて提訴した。

松江地裁は今年1月、▽時効のため約6年分の障害年金の受給権を失った▽胃ろうをつけた後も食事契約を解除しなかった——などを注意義務違反と認め、約1076万円の損害賠償を命じた。

だが、訪問を怠るなどして男性を不適切な生活環境に放置したことへの慰謝料請求は認められなかった。前任者は「電話で職員と連絡を取り、男性の状況を把握していた」と主張。地裁は「心身の状態や生活状況をどう把握するかは、後見人の裁量で適切な方法を選ぶことが許容されている」との判断を示した。

「このような判断が許されるなら、認知症や障害者の生活が脅かされる」と伊藤さんは言う。

最高裁によると、後見人を選任、監督する家裁が16年に財産横領や定期報告の遅れを理由に職権で後見人を解任した件数は255件。松江家裁はもっと早くに問題に気づき、対応をとることができなかったのだろうか。

取材に対し同家裁の草野徹総務課長は、「以前から適切な監督に努めてきた。個別の後見人への監督については答えられない」としている。

松江市であった成年後見訴訟のポイント

松江地裁の判決などから

脳に障害が残る男性



損害賠償求めて提訴

代理人の司法書士
2014年から男性の成年後見人

司法書士
2001年～14年に男性の成年後見人

- 松江地裁
司法書士に1076万円の賠償命令
- 1 6年分の障害年金
 - 2 胃ろうをつけた後の食費
 - 3 無償利用できた車いすのレンタル料

「わ・ハハ」授産販売5年 静岡、25日から感謝祭

静岡新聞 2017年9月23日



授産製品を販売する「わ・ハハ」のブース＝静岡市役所静岡庁舎
静岡市内の22の障害福祉事業所で作る団体「わ・ハハ」が同市役所静岡庁舎内で授産製品の販売を始めて、今年5周年を迎えた。庁舎を訪れる人との交流が、各事業所利用者の就労意欲の向上につながっているという。25、27、29の3日間、「大感謝祭」としてさまざまなサービスを展開する。

障害者の社会参加や工賃水準増などを目的に2012年3月、同庁舎1階に開店。毎週金曜日に、事業所が交代で、パンや焼き菓子のほか、木

工製品や縫製品などそれぞれが手掛けた品を並べる。認知度が高まり、すぐに売り切れる商品も。14年4月からは駿河区役所でも販売している。

「わ・ハハ」の川口文雄代表(66)＝NPO法人コム・コム＝は「授産製品は販路拡大が難しいが、市役所での販売をきっかけに声を掛けていただくこともある。各事業所が努力を重ねた品を手にとってほしい」と話す。

大感謝祭では、購入者にメモ帳をプレゼントするほか、「わ・ハハ」ポイントを5倍にする。販売時間は午前10時から午後3時。

大阪) 専門職大学開設へ貝塚市と学校法人が覚書 野田佑介

朝日新聞 2017年9月23日

貝塚市と学校法人清風明育社(大阪市阿倍野区)は22日、貝塚市橋本にある福祉・健康・教育拠点「せんごくの杜(もり)」内に専門職大学を開設するための覚書を締結した。2019年春以降の開設を目指して準備を進める。

市と清風明育社によると、大学を設ける予定の場所は大阪市立貝塚養護学校として使われていた約1・7ヘクタール。大学は情報技術や福祉、農業の専門人材の育成を目指し、校名は「日本専門職大学」(仮称)とする方針。校舎は旧養護学校の建物を活用する予定だ。

貝塚市は11年10月、大阪市から旧養護学校を含む約37ヘクタールの土地を購入し、利活用計画を策定。16年8月に事業者を公募し、清風明育社が大学開設に向けた調査を進めてきた。

今治市関係選手と監督の壮行激励会 123人が愛媛国体・障スポ大会での活躍誓う

愛媛新聞 2017年9月23日

愛媛国体と全国障害者スポーツ大会の今治市関係選手の壮行激励会で意気込みを語る川島さん

愛媛国体と全国障害者スポーツ大会に出場する今治市関係選手と監督の壮行激励会が21日、市内のホテルで開かれ、123人が大舞台上で最大限の力を発揮することを誓った。

同市在住などの出場選手は国体が110人、障スポ大会が50人(21日時点)。会では1人ずつ紹介後、菅良二市長が「鍛えた実力をいかに発揮し、全国の猛者と競ってもらいたい」とエールを送った。選手を代表しアーチェリー成年男子の川島慎平さん(今治市役所)が「応援してくれた人に結果で応えられるよう全力を尽くす」と力強く答えた。

今治南高応援団やマスコットキャラクター国体みきゃんらも駆け付け、選手を鼓舞した。



「鳥取頑張ろう」 愛媛国体、県選手団結団式

日本海新聞 2017年9月23日

「第72回国民体育大会」「第17回全国障害者スポーツ大会」に出場する鳥取県選手団の結団式が22日、鳥取市のココ・コーラ体育館で行われた。各競技の監督、選手ら245人が出席し、大会への意気込みを新たにした。

山岳の山田佳範監督とフライングディスクの谷口敬子選手の掛け声に合わせて「鳥取頑張ろう」と勝ちどきを挙げる鳥取県選手団＝ココ・コーラ体育館

団長の平井伸治知事が旗手を務めるテニス成年男子の小山慶大(ヨネックス)、障害者ボウリングの下村伸一(敬仁会)両選手に県旗を手渡し「思う存分に大暴れを」と激励した。



選手団を代表して国体山岳少年女子の山田佳範監督（気高中教）が「支えてくれる方への感謝を胸に、正々堂々戦う」、障害者アーチェリーの寺坂真一選手（県障害者協会）は「期待に応えられるよう全力で頑張る」とそれぞれ決意を述べた。

国体は30日～10月10日まで愛媛県内を主会場に開催。県選手団は会期前競技の水泳、カヌー（スラローム、ワイルドウォーター）、弓道を含む33競技にエントリーし、役員と監督・選手の計357人で構成される。10月9～17日に同県内で行われる障害者大会には、9競技（オープン含む）に85人が参加する。

障害者作業所 焼き立ての笑顔「太陽パン」30年 北九州



毎日新聞 2017年9月22日
手作りパンを手にほほ笑む「太陽パン」の従業員。
右端が岡崎圭さん、左端が母君子さん＝北九州市八幡東区で、木村敦彦撮影

知的障害者の手作りパンが評判の福祉作業所「太陽パン」（北九州市八幡東区祇園）が10月1日、設立30周年を迎える。障害児の保護者らで始めた小さな活動はパンを作る子供たちの笑顔と購入してくれる住民らに支えられて続いてきた。設立メンバーの一人で従業員の岡崎君子さん（73）は「これからも障害のある人に居

場所と生きがいを提供していきたい」と意気込む。

太陽パンは1987年、市内の養護学校に通っていた子供の保護者4人が「卒業した子供に居場所を」と設立された。当初は「難しい作業をさせるのは可哀そう」「つらい思いをさせてまで働かせたくない」など親たちの多くが反発した。

君子さんは、自閉症の長男拓さん＝今年2月に死去、享年48＝を育てた経験を踏まえて「パンを作る楽しみを知ること子供が成長する」と周囲を説得し続けた。手探りで活動する苦しい時期を支えたのは一生懸命にパンを作ろうとする障害者たちだった。次第に周囲の理解も深まった。

「障害のある人たちがおいしいパンを焼いている」との評判も広がりだし、売り切れが相次いだ。形が不ぞろいながらも優しい味が人気を呼び、当初はパンとクッキーで数種類だった品ぞろえも、今はパン十数種類とクッキー数種類に増え、作業所併設の店舗などで販売している。乾燥おからを原料にしたクッキーもヒット商品だ。

30年間で約30人が働き、現在は20～60代の11人がパンを焼く。君子さんは「たくさん雇って規模を大きくした方がもうかるだろうが一人一人に目が行き届かなくなる。私たちにはこの規模が合っている」と話す。

君子さんの次男で現在は所長を務める圭さん（41）は「みんな作り方を一度教えると、すごくうれしそうに作業してくれる」と目を細める。「太陽のように障害者にも公平に光を当てたい」との思いから名付けられた太陽パン。「働くことを通じて社会の一員であることを実感してもらえたい」と圭さんは語る。従業員の明るい笑顔に包まれ太陽パンは次の一步を踏み出す。【木村敦彦】

倉敷で「はあとふるコンサート」 24日、最後の公演楽しんで

山陽新聞 2017年9月23日

障害のある子どもたちに音楽を楽しんでもらう「第12回はあとふるコンサート」が24日午後2時～4時、倉敷市笹沖のくらしき健康福祉プラザ5階ホールで開かれる。

同市などのダウン症児でつくるダンスグループ「Smile Cheers」のパフォ

ーマンスで幕開け。第1部は、県内の支援学校教員らでつくるバンドが、オリジナルソングや東日本大震災のエピソードを基にした絵本の読み聞かせライブを披露する。第2部は中国学園大・中国短大の和太鼓サークル「鼓魂」とOBによる「むくろじゅ」が出演。オリジナルソング「あなたに会えて」を会場とともに合唱する。

倉敷まきび支援学校の太月永子教諭は「コンサート形式の公演はこれが最後。ぜひ多くの人に楽しんでほしい」と話している。

入場無料。問い合わせは同コンサート実行委事務局（086-441-3930）。

森岡龍、社会福祉の先駆者演じ「本当に身がギョッとするというか…」

スポーツ報知 2017年9月22日

舞台あいさつした森岡龍

俳優の森岡龍（29）が22日、東京・神保町の救世軍本営「山室軍平記念ホール」で主演映画「地の塩 山室軍平」（10月21日公開、東條政利監督）のプレミア上映会で舞台あいさつした。

明治から昭和にかけて社会福祉の先駆者と敬われ、日本人初の救世軍士官（牧師）となった宗教家・山室軍平の半生を描いた歴史ドラマ。森岡は「本当に身がギョッとするというか、世のため人のために生きるということを全うした生涯を送ることができてありがたかった」としみじみ。「遠い昔の話ではありますが、今も通じるような世の中の痛みとか、この映画を通じて学ぶものはあると思います」と話した。

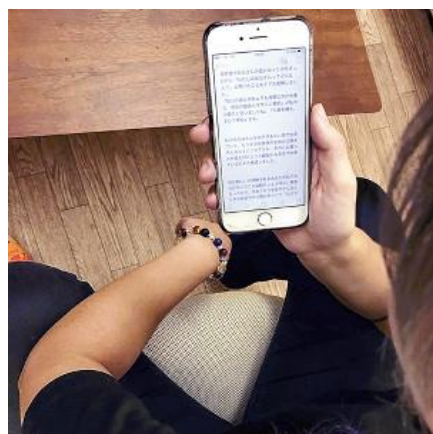
東條監督は森岡が役作りのため約1か月間、禁酒していたことを明かし「（撮影中は）森岡さんは無口な人だと思っていたけど、打ち上げと一緒に飲んだらむちゃくちゃしゃべるんでビックリしました。山室軍平を演じるにあたって、お酒を飲んだら演じられなかったと聞いて、真摯（しんし）に役作りしてくれたんだなと思った」と姿勢をたたえていた。



父へ母へ「愛されたかった。さようなら」…虐待被害100人、醜い親への手紙

読売新聞 2017年9月23日

児童虐待を受けた100人が、親に宛てた手紙を集めた「日本一醜い親への手紙」（dZERO刊）が10月上旬に出版される。1997年、同じタイトルで10万部を売り上げた本の第2作。親への憎しみや愛されなかった悲しさ、決別の言葉がつつられている。寄稿者の一人は、取材に「虐待で苦しむ人たちに、『一人じゃないよ』って伝えたい」と話す。



「お母さんを殺すか、自分が死ぬか…」

1日かけてスマホで打った母への手紙を読み返す麻衣さん。憎しみと悲しさが入り交じった複雑な思いがつつられている

「お母さんを殺すか、自分が死ぬか…」

◆本に掲載された手紙

飲食業男性(20)

お父さんへ。真冬でも朝方6時までパジャマ1枚で立たされて殴る蹴る。継母は「おまえは家族じゃない」って飯食わせてくれなかった。19歳の5月、あなたに90万円を貸し、1銭も返してくれなかった。もう、あなたには何を言ってもダメ

女性(42)

母さんへ。父さんが殴るから、私はいつも血まみれでした。母さんは、一度もかばってくれた事はありませんでした。父さんのご機嫌を取る方が大事だったんですよ。味方はどこにもいないから、感情に蓋をするしかないと思いました

※一部を抜粋

かで何度も迷ったんですよ」

大阪府内に住む 鍼灸師の麻衣さん（32）（仮名）は、母親への手紙で、自身の生い立ちをそう振り返った。

4歳の時、虐待が始まった。母親は出産後まもなく離婚しており、麻衣さんが「お父さんに会いたい」と伝えたところ、激怒して頬を思い切り殴られた。

小学生になっても暴力は続き、「娘というのは、母親の機嫌次第で殴られ、蹴られるものなのだ」と思っていた。

鍼灸師の専門学校を卒業後、家を出て開業したが、母親の過干渉でうつ病に。昨秋、医師の勧めで母親との連絡を絶った。それから1年。今はパートナーと子どもの3人で幸せに暮らす。

手紙では、母について「もう何とも思いません。憎むことで縛られたくない」とつづる。ただ、手紙はこう締めくくられる。

「でも、本音を言うと…悲しいし、寂しいです。お母さん、あなたに愛されたかったです。さようなら」

虐待受けながら、それでも親を愛そうと…

手紙は4～6月にインターネット上で公募された。本に登場する100人は中学生から50歳代。性的虐待や暴力、進学に必要なお金を用意しないなど経済的な虐待を受けたケースがあった。麻衣さんは「虐待を受けている時、自分は世界にひとりぼっちだと思っていた。でも、同じように苦しむ人がいると知り、それだけで心が楽になった」と言う。

編集は、前作から引き続きフリーライターの今一生さん（51）が担当した。今さんは「虐待を受けながら、それでも親を愛そうと、大人になって苦しむ人は多い。本には、『無理してつきあっていく必要はないんだよ』というメッセージを込めた」と話す。

四六判264ページ、1800円（税抜き）。

こころぎふ臨床心理センターの長谷川博一センター長の話「虐待を受けていたのに『親とうまくいかないのは自分のせい』と自らを責めがちな人が読めば、その考えから抜け出すきっかけとなり得る。過度に親への不信感を募らせる場合もあり、悩んだら、一人で抱え込まず、専門家に相談してほしい」

【今週の労務書】『会社の中の発達障害』

労働新聞 2017年9月23日

豊富な事例で対応解説

発達障害は従来から一見普通に働く人が該当していることも多く、健常者と区別が付きにくいいため対応が難しい。

本書では、自身も発達障害であったと自認する精神科医の著者が、組織への順応に苦労しながら働く発達障害者について、起こり得るトラブルと周囲がなすべき対応を分かりやすく解説している。ADHD、アスペルガー症候群、それらの複合型など25の具体例についてその概要と対処法が挙げられており、様々な事象に対応できそうである。もっとも医学的な見地によらない上司や同僚の「決めつけ」は厳に慎むべきと警告しており、医師の診察など適切な措置を取る必要性にも言及している。

障害者の法定雇用率引上げが迫る中、人事担当者にとって一読の価値がありそう

だ。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も
大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行

